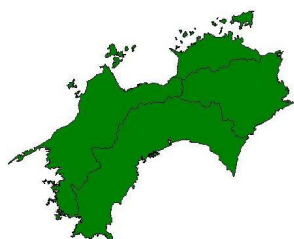


交通バリアフリーニュース



さぬき路鉄道駅のバリアフリー手帖が出来ました



前号でもお伝えしましたとおり、「NPO等との協働による旅客施設（鉄道駅）のやさしさ度調査プログラム委員会」（事務局 四国運輸局）では、香川県内の鉄道駅（JR四国、ことでん）について、各駅のやさしさ度（バリアフリー度）調査を実施し、このたび、「さぬき路鉄道駅のバリアフリー手帖」の発行及び四国運輸局ホームページへの掲載を行いました。

1 旅客施設（鉄道駅）のやさしさ度調査

四国では、全国に比べて高齢化が先行し、高齢者や身体障害者等の移動制約者に対する公共交通機関のバリアフリー化は重要な課題となっています。このため、四国運輸局では平成17年度に、香川県下の鉄道駅を対象に、利用者の視点で駅施設のバリアフリー状況を障害者団体、子育て中の母親の支援団体、自治体、鉄道事業者等と協働で調査を実施し、その情報を利用者に提供するとともに、ハード・ソフト両面の環境整備の取組みを検討することにより、公共交通機関の利用促進や活性化をめざす「NPO等との協働による旅客施設（鉄道駅）のやさしさ度調査プログラム」を実施しました。



さぬき路鉄道駅のバリアフリー手帖 表紙

やさしさ度調査プログラム委員会構成団体

“ぐるっと高松”公共交通を育てる会 NPO法人わははネット 財団法人高松市身体障害者協会 高松ボランティア協会 財団法人香川県老人クラブ連合会 四国旅客鉄道株式会社 高松琴平電気鉄道株式会社 香川県 高松市 四国運輸局

2 「さぬき路鉄道駅のバリアフリー手帖」

「さぬき路鉄道駅のバリアフリー手帖」は、本プログラムの委員会が、駅のバリアフリー情報をわかりやすく提供し、利用者の心理的不安を緩和し、鉄道利用の円滑化や利用促進を図ることを目的として作成したものです。

「さぬき路鉄道駅のバリアフリー手帖」は、委員会構成団体等を通じて、高齢者、障害者等の方に広く配布することとしています。

3 ホームページへの掲載

当局ホームページに冊子内容を掲載しました。

(URL <http://www.skt.mlit.go.jp/barrierfree/index.html>)

トップページのバナー「総合交通観光サイト」「四国の乗り物ガイド」などからごらんになれます。また、必要な駅情報についてはそれぞれ印刷ができるようになっています。

掲載日 平成18年6月27日

あわせて交通エコロジー・モビリティ財団運営の「らくらくおでかけネット」(URL <http://www.ecomo-rakuraku.jp/rakuraku/index/>)、高松琴平電気鉄道株式会社 (URL <http://www.kotoden.co.jp/>) ホームページにもリンクがされています。

なお、バリアフリー手帖及び当局ホームページに掲載されている各駅情報は、平成18年3月31日現在のものです。

その後の施設改修や周辺状況の変化等により現況と異なっている場合もありますので、あくまで参考情報としてご利用ください。

また、各駅の正確な情報をお知りになりたい場合は、各駅情報中における連絡先駅に直接お問い合わせください。



四国運輸局ホームページ

高松琴平電気鉄道(株)					
路線名	鉄道駅の名	乗車(有人) 時間	トイレ	エレベーター	ホームへの 経路状況
琴平線	高松駅	※日	♂ ♀		♿
	片原駅	※日	♿ ♂ ♀		♿ 線路横断
	互刺駅	※日	♿ ♂ ♀	♿	(エレベーターで対応)
	栗林公園駅	※日	♿ ♂ ♀		♿ 線路横断
	三途駅	平日 6:30~22:30 土日祝 7:30~19:30	♿ ♂ ♀		♿
	太田駅	※日	♿ ♂ ♀		♿ 線路横断
	一宮駅	※日	♿ ♂ ♀		♿ 線路横断
	四谷駅	※日	♿ ♂ ♀		♿ 線路横断
	国本駅	※日	♿ ♂ ♀		♿ 線路横断
	津田駅	※日	♿ ♂ ♀		♿ 線路横断

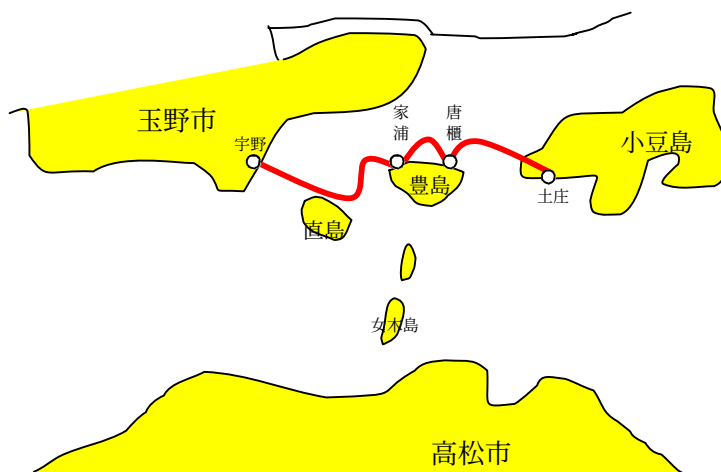
駅情報一覧のページ画面

駅情報一覧(琴電)

ことん琴平線 仏生山駅 (高松市)	
有人駅(終日)	連絡先: 087-889-0902
出入口⇄改札口	線路なし
1 のりば	改札口⇄ホーム
2 のりば	改札口⇄ホーム
ホーム間移動	スロープ・踏切あり
ホームと列車の段差あり	
トイレ	ホーム 段差2段あり
誘導警告ブロック	出入口⇄ホーム なし
その他設備(周辺情報)	前駅 列車 券売機 ペンチ 公共電話 発車表示 接近放送 タクシーのりば 一時 駐車場 バス停 ことんバス ことん仏生山駅

各駅ごとの情報ページ画面

バリアフリー船「フェリーてしま」が就航

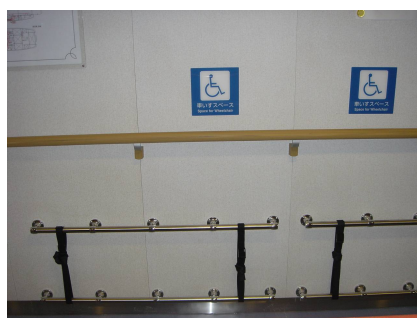


平成18年5月、小豆島フェリー(株)のバリアフリー適合船「フェリーてしま」が就航しました。

この船は、人にやさしい離島航路のモデル船として、高齢者や身体障害者等に配慮した様々な設備や工夫がなされています。(具体例:エレベーター、身体障害者用トイレ、高齢者用客室、バリアフリー客席、車いすスペース、出入りに自動扉とスロープ、船内を車いすで移動できるよう十分な幅の通路、手すり、点字表示、電子地図式運航標示装置等※下図参照)

「フェリーてしま」の概要

船主	小豆島フェリー株式会社
航路	宇野～土庄
総トン数	365トン
搭載人員	旅客定員 350名、乗組員7名
搭載車両	自動車22台 (又は8トントラック8台)



車いすスペース



高齢者用客室



身体障害者用トイレ



電子地図式運航標示装置
※モニター画面に現在地が逐次表示される装置



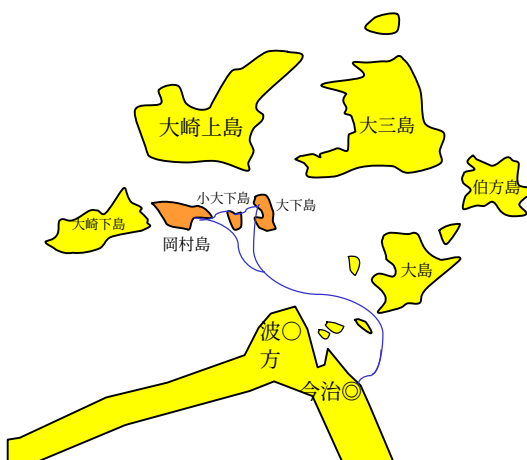
エレベーター



バリアフリー客席
※車いすからいす席に移動が可能

消費者行政インタビュー

～愛媛の離島航路～その1



四国運輸局では、消費者ニーズや消費者行政上の課題を把握し、その結果を行政に役立てていくことを目的として公共交通機関の利用者等を対象にインタビューを行っています。

今回は今治港と関前岡村間を結ぶバリアフリー適合船「第二せきぜん」利用者の方にお話を伺いました。現在人口675名の関前岡村島では高齢者が多く、通院のために船を利用される方も少なくありません。大切なライフラインである航路を維持し、より快適で安心して利用できるようにするためにはどうすればいいのか、率直な意見をお聞きました。

女性 60代(岡村在住)

今から今治市に住んでいる娘に会いに行きます。この船のいいところはトイレが洋式であることですね。私のように足の悪い者にとっては非常にありがたいことです。多少振動は気になりますがそれでも他の船と比較しても段差も少ないし格段に乗り心地がいいです。ただ時間帯によってはどうしてもこの船ばかり乗れませんから…便数を増やして欲しいのももちろんありますけど午後にずいぶん間隔があいた時間帯があるのでどうかしてほしいですね。あとは特に問題はないです。



多目的トイレ



船内車椅子固定場所

男性 10代(今治市在住)・土木作業員

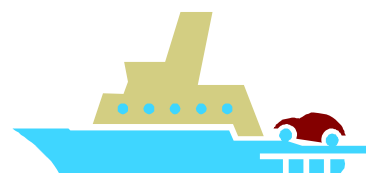
今日初めて乗船しました。岡村の土木工事現場に行っているところです。普段あまり船に乗ることはないですが船は階段もきついし傾斜も急だというイメージがありました。同居している祖母が車椅子を利用しているので、こういう船もあるのだということを教えてあげたいと思います。

祖母は祖父が看護していて、移動する時は主に介護タクシーなどを利用しています。自分も早く自動車運転免許を取得して、手助けがしたいと思っています。

～愛媛の離島航路～その2

船長さんにききました！！

乗客のみなさんにインタビューを行った後、「第二せきぜん」船長さんにも少しお話をお伺いしました。



—この船は何名の船員さんで運航されているのでしょうか？

わたし(船長)を入れて3名です。

—どのようなお客さんが多く利用されていますか？

今治市へ通院されているお年寄りが多いです。岡村発第一便が最も混雑します。みかんの出荷時には車両の積み込みがどっと増え、何時間も前から順番待ちをしている場合もありますがそれでも一度に乗り切らない場合もありますね。島から通勤している人や今治市の高校に通学している学生さんなどは始発の早い高速船を利用している人が多いですね。



下船風景

—約3年前にバリアフリー適合船になりましたが乗客の反応はいかがでしたか？

楽になったと言われます。喜ばれていると感じています。ただ車の積み込みが多い時は乗降時一階デッキ左右の歩行スペースがかなり圧迫されますので乗客の方は歩きにくいのではないかととても気になっています。



車両甲板

—実際に身体障害者の方が乗船される時、どのように対応されているのでしょうか？

今のところ必ずご家族の方などが付き添っているので特に問題はなかったです。車椅子利用者の方は1階の車椅子スペースに車椅子のみ固定して、ご本人は座席にお座り頂いています。今後もし身体障害者の方が単独で乗船されるようなことがあれば乗組員でサポートします。下船時の栈橋までの区間の移動などはつい見落としがちなので最後まで安全に乗客の方が降りられるよう注意していかないとはいけないと思っています。

詳細については四国運輸局のHPで近日公開予定です

車いす対応二階建て高速バスの紹介

J R四国夜行バス



路線バス等でノンステップバスを見かけることは多くなりましたが、昨年度のアドバイザー会議のなかで、「車いすで乗車できる高速バスがない」との意見が出されました。

まだ認知度は低いですがJR四国バスが運行する高速夜行バスのなかに、最近導入した二階建ての車いす対応の車両があります。

そこで、実際に二階建てバスの機能を検証するため、ジェイアール四国バスを訪ね、「高松・徳島～東京」便の高速バスを見せていただきました。

【定員】 38名。(1F:8席、2F:30席)

【トイレ】一階中央に有ります。

【運行体制】運転手二名。運転席隣に仮眠スペース有り。

右図のように中央出入口から乗車します。二階席へは階段を使って上がりますが、目の前が車いす固定場所なので車いす利用時には一段目のステップを取り外すことによりスペースが確保されます。



車内車椅子固定場所



拘束時間が長いため、車いすのみ専用スペースに固定し、本人は座席に座るのが基本ですが、それが困難な場合は、車いすに乗ったまま乗車することもできます。手すりの上部には非常ブザーのボタンがついています。

この専用スペースに固定できる車いすは1台です。それ以上の場合は車いすをトランクに入れる等して対応することは可能ということでした。

感想

導入したばかりという真新しいバスはやはりとてもきれいで、シートもゆったりとしていて快適そうでした。経済的で、乗り替える必要もなく、安心して寝ていられる夜行高速バスが人気のある理由がわかった気がしました。

ただ二階席は天井が低いので圧迫感があることと、車高が高い分、少し振動が大きいとのことでした。

なお、他の車椅子対応となっていないバス車両の場合においても、事前連絡すれば車椅子利用者も対応可能ということでした。

一階席は女性専用。トイレも近くに有って女性にとっては嬉しいと思いました。

車内座席案内表



ユニバーサルデザインを体験しました



四国技術事務所 全景

四国地方整備局 四国技術事務所のユニバーサルデザイン体験コースをご存じですか？

これは、よりよい道づくりを目指すために同局が「リアルに」「楽しく」「学べる」体験学習施設として設置したものです。コースの中には、ユニバーサルデザインを取り入れた様々な工夫や配慮がなされた例、またあえて施工不良にした例が設けられ、その違いを体験でき、利用者の視点からの歩道空間について学ぶことが出来るようになっています。

利用の申し込みには、利用日の1週間前までに、四国技術事務所への連絡が必要です。(Eメール・FAX・電話・etc)

国土交通省 四国地方整備局 **四国技術事務所**

〒761-0121 香川県高松市牟礼町牟礼1545

TEL(087)845-3135 FAX(087)845-3998



スロープの勾配の違いを体験できる設備



紛らわしい誘導ブロックの施工例

マタニティマークをご存じですか？

これまで、各種交通機関における優先席のマークでは、おなかの大きな妊婦のマークが使用されてきました。しかし、妊娠初期には外見から妊娠していることが分かりにくいことから、厚生労働省では、マタニティマークを募集し、マークを妊産婦に役立てていただくとともに、交通機関における優先的な座席の確保や、受動喫煙の防止といった、妊産婦に対する気遣いなど、やさしい環境づくりに関して広く国民の関心を喚起しています。

各交通機関においては、妊産婦さんにやさしい環境づくりに向けて、その取り組みや呼びかけ文を付してポスターなどとして掲示することが出来ますので是非ご活用下さい。

マタニティ・マーク利用に当たっての注意点など詳しくは、厚生労働省のホームページをご覧ください。

<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/03/h0301-1.html>



高松市では妊婦さんが公共交通機関を利用するときに身につけるため、このマークを利用し、全国に先駆けて「マタニティバッジ」を作成しています。詳しくは「高松市保健センター」(TEL087-839-2363)までお問い合わせください。

～閑話休題～

バリアフリーボランティアへの道 ①

四国運輸局では、交通バリアフリーニュース第3号でお伝えした、広島や鳥羽での駅ボランティアモデル事業を、今年度実施予定です。

とはいうものの、なかなかこれまでの実生活の中で、ボランティアの体験ありません。そこで、事業成功のために、ボランティアの世界に踏み込んだ記者レポートを連載企画でお伝えしたいと思います。

【4月1日(土)】高松ボランティア協会主催のボランティア講座「ボランティアはじめての一步 初心者編」に参加する。

講座のメニューは、日赤香川県支部職員による救命講習、訪問介護センター職員による視覚障害者介助法、県立高松養護学校教諭による車イス利用者介助法の3つであった。当日の受講者は8名で、年齢も小学生から高齢者の方と幅広い。



オリエンテーションの様子

人と話をするのが苦手な記者ではあるが、今後の参考のために、若い男性2人組に思い切って声をかけ、突撃インタビューを試してみた。

話を聞いたのは難波さん(34歳)と馬場さん(28歳)のお二人。共に同じ専門学校で作業療法を学んでいる。



介助体験中の難波さん(右)と馬場さん(左)

「学生をしながらボランティアに参加してみようと思った動機は何か？」

会社勤めの頃から、人脈を広げたいと思っていた。現在は、学校の授業だけでなく、実際に障がいのある方と交流を持ったり、医療・福祉分野の方や他の学生と知り合いになることにより、自分にとってプラスになるから。刺激を受けるのがボランティアの魅力だと思う。

「趣味は何か？」

難波さん：魚釣り。馬場さん：ボランティア活動。

「ボランティアを趣味と言い切るのはなかなかすごいと思うが？」

他人の喜ぶ顔が自分のストレス解消になる。

「障がいを持っている方との出会いで、構えたりしたことはあったか？」

それはやっぱりあった。ボランティア経験の最初は、どのように話しかけたらよいのか困ったが、一般的に初対面の人に対しての失礼のない言葉遣いを心がければよいと思う。相手が健常者であれ障がいを持っている方であれ全く問題はない。

■彼らの話を聞いて思ったこと

「気を遣うことに疲れないか？」という問いかけに対して、「人の笑顔にふれられるから疲れない。」と答えてくれた馬場さんの言葉がとても印象的であった。世知辛い昨今にあって、彼らのよう若者が存在することは非常にありがたいことであり、救われる思いを感じた記者であった。

【6月4日(日)】障がい者・ボランティアを含む総勢200人の一行が、徳島から高松にやってきました。

これは、徳島で「旅に出たい」「列車に乗りたい」「友達がほしい」と思っている人を対象に、NPO法人徳島県ボランティア協議会が中心として、～海光あふれる港町高松・四国一の展望満喫の旅～として、ふれあい列車「しらさぎ号」を貸し切って、高松に観光と交流を深めるために企画したものです。・・・(高松ボランティア協会のボランティア募集の広告より)



高松駅ホームでの出迎え風景

当日集まったボランティアは事務局スタッフを入れて47名。ボランティア団体関係者、学生、一般参加者でほぼ均等に構成されており、一般参加者が結構いるのは心強いものである。ただし、参加した経緯を聞くと、ボランティア団体からの口コミがほとんどとのこと。



踊りの渦が広がる高松駅前広場の様子

参加者を乗せた列車が高松駅に到着すると、まずは、徳島からやってきた阿波踊りのグループ(連という)、「すだち連」が歓迎の阿波踊りを披露。参加者の方々も一緒になってあたりはたちまちお祭りムードへ。居合わせた県外の観光客からもあたたかい拍手が送られた。

記者も何とか踊りの渦に加わったのだが、連長さんから手振りがおかしいと早速のダメ出し。徳島県出身者として情けない一幕であった。

歓迎セレモニーの後は、グループに分かれて高松市内を散策。高松駅頭の再開発ビル「サンポート高松」や玉藻公園、栗林公園など、それぞれ名所旧跡を訪れたり、商店街でのショッピング、そうそう忘れてはならない、さぬきうどんに舌鼓を打つなど、思い出多い旅となったようだ。

参加者みなさんのお世話を終えた後で、インスタントの介助で申し訳なかったなと反省しきりだったが、後日、ボランティア参加者にはお礼状も届いたようで、これからバリアフリーボランティア事業に携わろうとする者にとっては、何とか面目躍如といったところであろうか。(交通環境部 竹内)



緑豊かな高松城址・玉藻公園を散策

交通バリアフリー教室について

四国運輸局では交通バリアフリーについての理解を深めるとともに、ボランティアに関する意識を醸成し、誰もが高齢者・身体障害者等に対し、自然に快くサポートできる「心のバリアフリー」社会の実現を目指して交通バリアフリー教室を開催しています。

今年度は、7月6日に高知龍馬空港での開催を皮切りに、順次教室の開催を予定していますが、教室開催にご協力いただける事業者、NPOの方からのご連絡をお待ちしています。また、乗務員教育の一環として開催を希望される事業者の方もご一報ください。



【編集後記】

この4月に交通環境部消費者行政課に配属になり、3ヶ月がたちました。聞き慣れない単語が飛び交い、それまで気にもとめていなかった様々なものの段差やスロープの角度を徹底的にチェックする、私は果たしてここで何ができるんだろうと不安いっぱいのスタートでした。今回初めて「消費者行政インタビュー」で実際に乗客の方々や船長さんにお話を伺い、「百聞は一見にしかず」の字のごとく、実際に見て、聞いて、実感していくことの大切さをひしひしと感じています。思いこみや先入観ではなく、一利用者の目線にたち、物事を捉えていくことのできるよう、まずは自分の心のバリアフリーが先決であると思いました。

(交通環境部 伊藤)

みなさんからのご意見・ご投稿をお待ちしています。バリアフリーに関するものならなんでも結構です。四国運輸局消費者行政課まで、FAXまたはメールでお寄せ下さい。



〒760-0064

高松市朝日新町1-30

四国運輸局交通環境部消費者行政課

電話 087(825)1174

FAX 087(822)3412

Email: Shikoku-shohisha@skt.mlit.go.jp



国土交通省

このニュースは交通バリアフリー関係の話題を中心に、4県自治体のバリアフリー関係担当部署、交通事業者及び地域のNPOの方等にお送りしています。このニュースの配信につきまして、配信先の追加、変更や停止をご希望される方は、お手数ですが本メールの返信機能でご連絡ください。

四国運輸局ホームページもご覧下さい

<http://www.skt.mlit.go.jp/>